

宮ヶ瀬周辺の鳥類記録

青木雄司・藤井 幹

Yuji Aoki and Takashi Fujii:

Records of The Birds from Miyagase, Eastern Tanzawa

はじめに

宮ヶ瀬湖（以下、湖）は、宮ヶ瀬ダム建設によってできた人造湖で、東丹沢の山麓部にあたり、神奈川県愛甲郡清川村、愛川町、津久井郡津久井町の2町1村にまたがっている。貯水面積は約4.6km²で、湖には相模川の支川である中津川と、中津川の支川である早戸川、川弟川の3河川が流入している。湖の周辺は、北側を南山山系、東側を仏果山山系、南側を辺室山山系、そして西側を丹沢山地につながる高畑山山系によって囲まれている。湖周辺の標高は、最低標高がダム本体よりも下流で約150m、周辺山系の最高標高は、南山山系が568m、仏果山山系

が747m、辺室山山系が814m、高畑山山系が848mである。湖の周遊道路の標高は約300mで、満水時の水位は286mである。湖周辺の植生域はヤブツバキクラス域であるが、自然植生は少なく、スギ・ヒノキなどの植林地で占められている（宮脇・鈴木,1982）。また、稜線沿いには天然のモミ、ツガが点在している。

宮ヶ瀬ダムの工事開始以前は、貯水池内に落合を始めとした集落があり、茶畑などの農耕地もみられた。工事開始後は貯水池内の民家はすべて周辺地域へ移転し、農耕地もなくなった。その後、1987年に中津溪谷が埋め立てられ、ダム本体建築のための工事用河床道路が造成された。

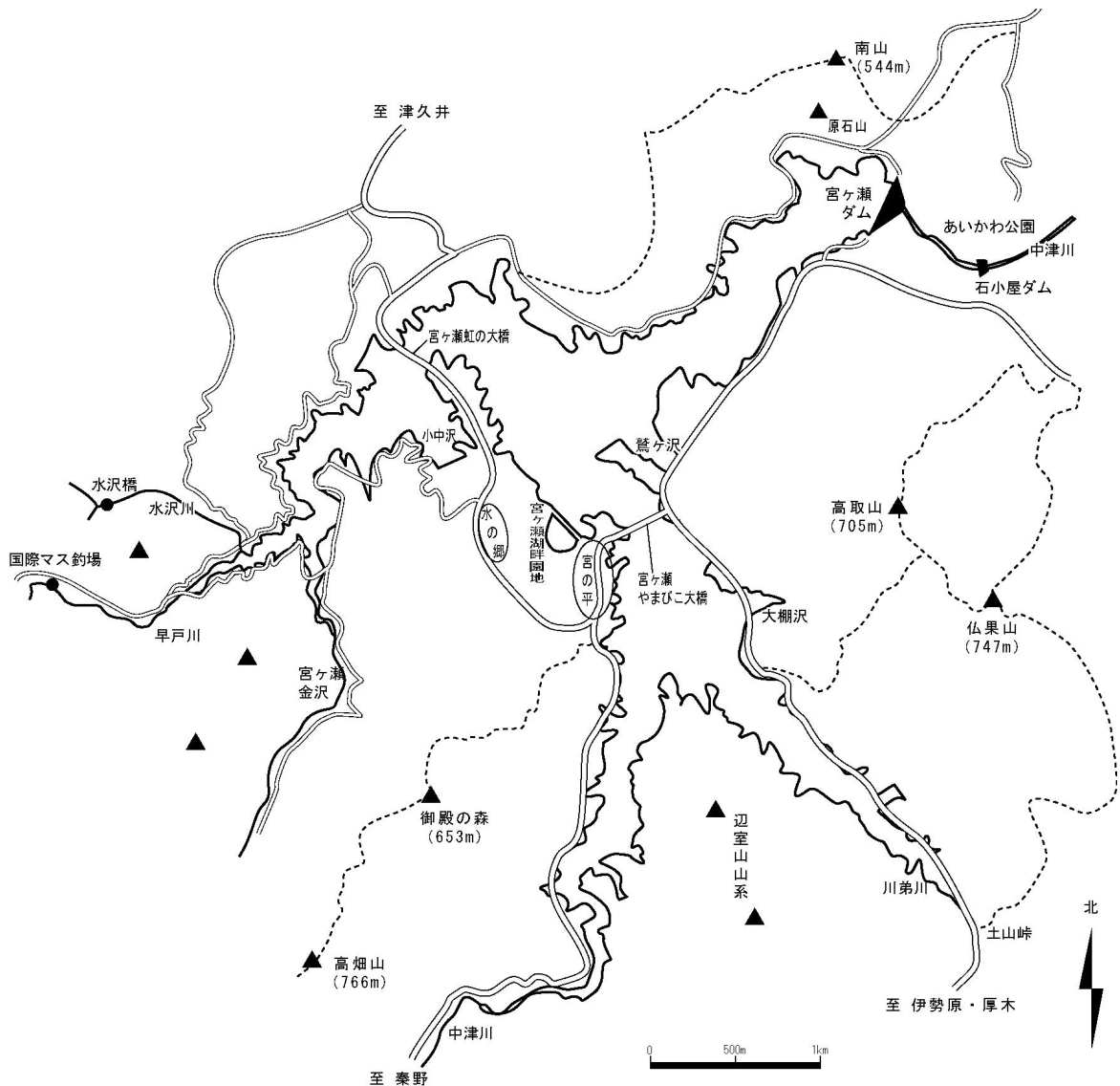


図1. 調査地概要図。(宮ヶ瀬地図).

1994年には貯水池内の伐採が開始され、翌1995年には湛水が開始されて1998年に満水するまで環境は大きく改変していった。本報告は、湖周辺において2004年10月までに確認された鳥類の記録をとりまとめ、環境変化に伴う鳥類相の変化を、記録をもとに考察した。

記録の概要

本報告で取り上げている記録は、2004年10月までに筆者らが任意踏査で確認した記録のほか、国土交通省の協力で行った水鳥調査のデータや、文献及び湖周辺を調査や観察会等でフィールドとしている方々の記録も取り入れた。

記録の対象とした範囲は、湖を中心として南山山系、仏果山山系、辺室山山系、高畑山山系とし、山系のない北西部は水沢上流の水沢橋と早戸川の国際マス釣場を境とした。

鳥類相の変化

湖周辺で、16目43科145種（外来種5種を含む）が記録された。スズメ目が73種と最も多く、全体の50.3%を占めている。これに次いでカモ目が15種（10.3%）、タカ目が14種（9.6%）であった。記録された145種のうち陸鳥（タカ目、キジ目、ハト目、カッコウ目、フクロウ目、ヨタカ目、アマツバメ目、ブッポウソウ目、キツツキ目、スズメ目）は112種（77.2%）、水鳥（カイツブリ目、ペリカン目、コウノトリ目、カモ目、ツル目、チドリ目）は33種（22.8%）であった。記録として取り上げた145種のほかにも、1980年代にブッポウソウ、チゴモズ、コシキリなどの3種が確認されているが、情報不足のため、本報告では記録として扱わなかった。また、クジャク類（2001年9月15日）とバリケン（2003年1月29日）も記録されたが、家禽のためデータの対象としなかった。

145種のうちの33種は、湛水が開始された1995年10月以降に新たに記録された。新たに記録された種のうち陸鳥はチゴハヤブサ、コチョウゲンボウ、アリスイ、ヤイロチョウ、イワヒバリ、オオヨシキリ、セッカ、ノジコ、オオマシコ、ソウシチョウの10種（30.3%）、水鳥はカイツブリ、ミミカイツブリ、カワウ、ササゴイ、アマサギ、ダイサギ、アオサギ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、カワアイサ、バン、オオバン、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、カナダガンなどの23種（69.7%）であった。逆に湛水が開始されてからは分布が局地的になった種としては、イカルチドリとカワガラスがあげられる。この2種は、湛水前は貯水地内の河川で繁殖していたが、現在ではイカルチドリは宮ヶ瀬湖畔園地などの埋め立て地、カワガラスは宮ヶ瀬湖畔園地と中津川、早戸川の上流部及びダムの下流部でしか確認できない。

宮ヶ瀬地区で個体数の増加が確認されている種は、カワウ、アオサギ、ミサゴの3種で、一時的に増加したが現在確認数が減少している種はオシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ゴイサギの5種である。また、データによる個体数増加は把握されていないが、確認頻度が増加している種として、ヒメアマツバメ、ソウシチョウ、ガビチョウの3種があげられる。

水鳥の推移

湖ができたことで多くの水鳥が新たに記録され、飛来数も大きく変動することとなった。水鳥の中で繁殖が確認されているのはカイツブリ、カワウ、カルガモ、イカルチドリの4種で、カイツブリとカワウは湛水後に新たに繁殖が確認された種である。また、繁殖期にも確認記録があることから繁殖の可能性がある種は、オシドリ、アオサギ、コチドリなどの3種である。

湖が湛水した当初は、水際のシイ類などの常緑樹がまだ緑を残していたほか、川筋では水没途中のススキ原が水面に広がっていた。また、水面には洗い流された土砂や堆積物により、浮遊物も多くみられた。そのため、水鳥にとっては隠れ場所や餌資源も豊富であったと思われる。実際に、その頃にはオシドリの約300羽を始め、マガモ約200羽、カルガモ約100羽、コガモ約150羽と一時的に水鳥の数が激増した。しかし、その後水際の木は枯死し、水際の堆積物も全て洗い流されてからは隠れ場所や餌も少なくなり、それに合わせるようにカモ類の飛来数も減少していった。この他にも、水鳥の減少の要因には、遊覧船の運航や釣り人の増加、管理用道路の一般解放など様々な要因が考えられる。また、湛水当初は水位が安定している時期もあったため、その間にカイツブリが繁殖をすることができた。しかし、現在ではカイツブリの繁殖期にあたる時期（最盛期）には、洪水対策として1週間に平均約1m近く水位を下げるため、それによって浮き巣が水際の木にぶら下がっている状況が各地で確認された。そのため、現在カイツブリの繁殖は、水位変動の無い宮ヶ瀬湖畔園地で確認されているのみである。

目 録

原則として、和名、学名、その種についての簡単な説明と必要に応じて記録データを付記した。和名、学名、配列は日本鳥学会（2000）の日本鳥類目録に準じた。筆者ら以外からの情報の場合は確認者名を、文献からの情報の場合は、文献名をそれぞれデータの後に記載した。また、1995年10月の湛水開始以降に新たに記録された種については、その記録の後に初記録と明記して区別した。

なお、外来種については丹沢山地で繁殖が確認されている種、もしくは繁殖の可能性がある種を対象とし、目録の末尾にまとめて記載した。

カイツブリ科 Podicipedidae

カイツブリ *Tachybaptus ruficollis*

留鳥。1996年12月17日に早戸川において2羽が確認された（初記録）。その後は頻繁に確認されるようになり、1997年8月7日には雛を2羽確認（神戸宇孝）。これによって、繁殖が初めて確認された。1998年7月には、湖全域で6巣が確認されたが、現在は営巣環境の減少や水位変動により、繁殖成功は宮ヶ瀬湖畔園地で確認されているだけである。

ミミカイツブリ *Podiceps auritus*

迷鳥。1998年11月15日に小中沢において1羽が確認された（石田スーザン）（初記録）。その後12月まで確認されたがその後は確認されていない。

ウ科 Phalacrocoracidae

カワウ *Phalacrocorax carbo*

留鳥。1996年6月21日に落合において1羽が確認された（初記録）。1997年1月22日には大瀬沢付近に114羽の群れが飛来し、その後は頻繁に確認されるようになった。1998年3月4日には41羽がねぐらをとるのが確認され、同年4月23日には抱卵が確認された。1999年までは水位変動により巣が水没して繁殖は失敗に終わるが、その後は繁殖に成功し、2004年5月28日には、鷺ヶ沢、早戸川、小中沢で合わせて69巣が確認された。

サギ科 Ardeidae

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

留鳥。湛水開始前から普通に確認されていた。早戸川にある国際マス釣場では、夜間約 20 ～ 40 羽が 1 年を通して確認されていた。湛水開始後確認数は増加し、1997 年 10 月 29 日には小中沢の 168 羽をはじめとして湖全域でのべ 208 羽が確認された。しかし、繁殖は確認されておらず、現在では確認数も減少している。

ササゴイ *Butorides striatus*

夏鳥。1997 年 8 月 7 日に 4 羽が確認された（初記録）。その後も少数が飛来していたが、2000 年以降確認されていない。本種は神奈川県では夏鳥として渡来し、河川の中流域では普通に確認される。しかし、丹沢では稀である（平田・山口,1997）。

アマサギ *Bubulcus ibis*

迷鳥。1997 年に宮ヶ瀬小中学校において 1 羽が確認された（吉田文雄）（初記録）。1998 年 9 月 2 日には、やまびこ大橋付近のスキの樹上で 4 羽が休息しているのが確認されたが、その後は確認されていない。

ダイサギ *Egretta alba*

迷鳥。1998 年 6 月 24 日に川弟川において飛翔中の 1 羽が確認された（初記録）。1998 年 10 月 19 日には、台風の後には早戸川と宮ヶ瀬湖畔園地の 2 カ所でそれぞれ 1 羽が確認されたが、その後は確認されていない。

コサギ *Egretta garzetta*

迷鳥。湛水開始前は時折確認されていたが、湛水開始後は 1998 年 10 月 19 日に宮ヶ瀬湖畔園地で 1 羽が確認されたのみである。

アオサギ *Ardea cinerea*

留鳥。1996 年 8 月 20 日にシルタル沢において 1 羽が上空を通過していくのが確認された（初記録）。その後は頻繁に確認されるようになり、2003 年 1 月 29 日には湖全域で 32 羽が確認されたが、繁殖は確認されていない。

カモ科 Anatidae

オシドリ *Aix galericulata*

冬鳥（一部留鳥）。湛水開始前から飛来が確認されており、現在の宮ヶ瀬湖畔園地にあった及沢堰堤が無くなる前は、堰堤によってできた開水面に飛来が確認されていた。ダム工事によって確認数は減少したが、湛水開始後は飛来数も年々増加し、2002 年 1 月 18 日には湖全域で 460 羽が確認された。また夏季においても少数が確認されるが、繁殖は確認されていない。現在飛来数は減少している。

マガモ *Anas platyrhynchos*

冬鳥。及沢堰堤が無くなる前は、堰堤によってできた開水面に少数の飛来が確認されていた。及沢堰堤が無くなってからは確認できなくなったが、1995 年 1 月に工事によって中津川にできた開水面に飛来が確認された。湛水開始後は飛来数も増加し、1998 年 1 月には湖全域で 195 羽（中津溪谷 142 羽）が確認された。夏季にも記録があるが繁殖は確認されていない。

カルガモ *Anas poecilorhyncha*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。湛水開始後は確認数も年々増加し、1998 年 1 月には湖全域で 104 羽が確認されたが、その後確認数は減少している。1999 年 6 月 15 日には雌 6 羽、2004 年 5 月 26 日には雌 10 羽（坂本堅五）が確認された。

コガモ *Anas crecca*

冬鳥。及沢堰堤が無くなる前は、堰堤によってできた開水面に飛来が確認されていた。及沢堰堤が無くなってからはほとんど確認できなくなったが、湛水開始後は飛来数が年々増加し、2002 年 1 月 18 日には川弟川、中津川でのべ 212 羽が確認された。

トモエガモ *Anas formosa*

迷鳥。1998 年 11 月 19 日に早戸川において 1 羽が確認された（石田スーズン）（初記録）。その後は確認されていない。

ヨシガモ *Anas falcata*

迷鳥。1998 年 11 月 9 日に 2 羽（石田スーズン）、同月 19 日に 1 羽が大棚沢において確認された（初記録）。2002 年 1 月 18 日には宮ヶ瀬湖畔園地で雌 1 羽が確認されたが、その後は確認されていない。

オカヨシガモ *Anas strepera*

迷鳥。1997 年 1 月 8 日に馬場において雌雄 2 羽が確認された（初記録）。1998 年 11 月 14 日にも鷺ヶ沢で雌雄 2 羽が確認されたが、その後は確認されていない。

ヒドリガモ *Anas penelope*

迷鳥。1998 年 10 月 27 日に中津溪谷において 2 羽が確認された（初記録）。その後冬季の間、湖内で時折確認された。2002 年 1 月 18 日には宮ヶ瀬湖畔園地で雌 1 羽が確認されたが、その後は確認されていない。

オナガガモ *Anas acuta*

迷鳥。1997 年 10 月 29 日に中津川において 30 羽が確認された（初記録）。その後も中津溪谷で時折確認されたが、1999 年以

降確認されていない。

ハシビロガモ *Anas clypeata*

迷鳥。1999 年 2 月 22 日に大棚沢において 1 羽が確認された（初記録）。その後は確認されていない。

ホシハジロ *Aythya ferina*

迷鳥。1997 年 12 月 2 日に、中津溪谷においてマガモの群の中に雄 1 羽が確認された（初記録）。その後 2002 年 1 月 18 日には宮ヶ瀬湖畔園地で雄 1 羽が確認されるが、その後は確認されていない。

キンクロハジロ *Aythya fuligula*

冬鳥。1997 年 1 月 18 日に、落合において 1 羽が確認された（初記録）。その後も、宮ヶ瀬湖畔園地では時折確認されている。

スズガモ *Aythya marila*

迷鳥。2004 年 10 月 22 日にダム本体付近で雌 1 羽が確認された（石田スーズン）（初記録）。

カワアイサ *Mergus merganser*

迷鳥。1997 年 10 月 29 日に、中津溪谷において 4 羽が確認された（初記録）。その後は確認されていない。

タカ科 Accipitridae

ミサゴ *Pandion haliaetus*

留鳥。湛水開始前は早戸川や山間部で稀に確認されていた。湛水開始後は冬季を中心に確認されはじめ、現在は 1 年中定着しているが、繁殖は確認されていない。2004 年 1 月 22 日には最大数 5 羽が確認された。その他、夏季の記録としては 2004 年 5 月 28 日、湖全域で雄 2 羽雌 1 羽などがある。

ハチクマ *Pernis apivorus*

旅鳥。渡りの時期に通過する個体が確認される。時折繁殖期にも確認されるが、1994 年に本種のものと思われる古巣が確認された以外は繁殖は確認されていない。

トビ *Milvus migrans*

留鳥。普通に確認される。繁殖も確認されている。

オオタカ *Accipiter gentilis*

留鳥。繁殖も確認されている。

ツミ *Accipiter gularis*

留鳥。夏季にも確認されているが、繁殖は確認されていない。2001 年 9 月 5 日には水の郷で窓ガラスに衝突した雄幼鳥を保護した。

ハイタカ *Accipiter nisus*

冬鳥。少ない。冬季を中心に確認される。夏季にも確認されているが、繁殖は確認されていない。

ノスリ *Buteo buteo*

冬鳥。普通に確認される。秋の渡りの時期には通過する個体が多く確認される。

サシバ *Butastur indicus*

旅鳥。春秋の渡りの時期に通過する個体が確認される。1998 年 10 月 3 日には宮ヶ瀬湖畔園地から丹沢山地を通過するのべ 125 羽の通過が確認された（石田スーズン）。

クマタカ *Spizaetus nipalensis*

留鳥。繁殖も確認されている。

イヌワシ *Aquila chrysaetos*

迷鳥。1992 年 10 月 28 日に、仏果山付近において若鳥が 1 羽確認された。丹沢では繁殖は確認されていないため（平田・山口,1997）、分散個体が確認されたものと思われる。

ハヤブサ科 Falconidae

ハヤブサ *Falco peregrinus*

冬鳥。秋季から冬季にかけて時折確認される。

チゴハヤブサ *Falco subbuteo*

旅鳥。1996 年 10 月 19 日に、原石山において 2 羽が確認された（初記録）。秋の渡りの時期に稀に確認される。その他の記録としては、2004 年 9 月 22 日高取山山頂で渡り途中の幼鳥 1 羽などがある。

コチョウゲンボウ *Falco columbarius*

迷鳥。1996 年 10 月 19 日に、南山周辺において 1 羽がチョウゲンボウをモビングしているのが確認された（川手隆生）（初記録）。その後は確認されていない。

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

留鳥。普通に確認される。貯水池内が伐採される前は、冬季を中心に稀に確認されるだけであったが、伐採後は頻繁に確認されるようになった。1996 年にはダム本体付近で餌運びをしていたのが確認され、同年 8 月には幼鳥 2 羽が確認された。また、1998 年 6 月には、石小屋ダムへ餌運びをするのが確認された。

キジ科 Phasianidae

ヤマドリ *Phasianus soemmerringii*

留鳥。山間部を中心に確認され、繁殖も確認されている。

キジ *Phasianus colchicus*

留鳥。平野部を中心に確認され、繁殖も確認されている。

クイナ科 Rallidae

バン *Gallinula chloropus*

迷鳥。1997年1月16日に、馬場において2羽が確認された(初記録)。その後冬季を中心に確認されていたが、1999年以降確認されていない。

オオバン *Fulica atra*

迷鳥。2001年10月16日に虹の大橋付近で1羽が確認された(初記録)。2003年12月15日には宮ヶ瀬湖畔園地で1羽が確認され、その後越冬が確認された。

チドリ科 *Charadriidae*

コチドリ *Charadrius dubius*

夏鳥。1995年5月5日に、東沢において1羽が確認された。その後、湖周辺の造成工事によってできた荒地地で頻繁に確認されるようになり、1998年8月26日には宮ヶ瀬湖畔園地で7羽が確認されたが、現在は荒地地も少なくなり、飛来数も減少している。繁殖は確認されていない。

イカルチドリ *Charadrius placidus*

留鳥。湛水開始前は、貯水池内の河原で普通に確認され、繁殖も確認されていた。湛水開始後は、宮ヶ瀬湖畔園地等の埋め立て地や造成地で確認されている。1998年3月18日には宮ヶ瀬湖畔園地で7羽が確認された。

シギ科 *Scolopaciidae*

インシギ *Actitis hypoleucos*

迷鳥。稀に確認される。記録としては1998年8月23日宮ヶ瀬湖畔園地で1羽、1999年6月16日同場所で2羽、1999年7月16日早戸川林道で1羽などがあるが、2000年以降確認されていない。

タシギ *Gallinago gallinago*

迷鳥。宮ヶ瀬湖畔園地の造成中の湿地において、1998年3月18日に1羽、同月31日には2羽が確認された(初記録)。

ヒレアシシギ科 *Phalaropodidae*

アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus*

迷鳥。1990年8月26日に土山峠において1羽が保護され、神奈川県自然環境保全センターに収容された(山口,1991)。

カモメ科 *Laridae*

ユリカモメ *Larus ridibundus*

迷鳥。1998年11月10日、早戸川において成鳥1羽が確認された(初記録)。その後は確認されていない。

セグロカモメ *Larus argentatus*

迷鳥。2001年1月4日に1羽が確認された(宮ヶ瀬ビジターセンター,2002)(初記録)。その後は確認されていない。

ハト科 *Columbidae*

キジバト *Streptopelia orientalis*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

アオバト *Sphenurus sieboldii*

夏鳥(一部留鳥)。主に夏鳥として普通に確認されるが、少数が越冬している。越冬記録としては、1993年12月10日御殿の森でさえずり、1994年2月2日落合のスギ林で9羽、1998年3月11日高畑山登山道で雄1羽などがある。

カッコウ科 *Cuculidae*

ジュウイチ *Cuculus fugax*

夏鳥。少ない。山間部の稜線沿いで確認されていたが、現在はほとんど確認することはできない。

カッコウ *Cuculus canorus*

旅鳥。5月から7月にかけてさえずりが稀に確認されるが、渡りの途中の個体と思われる。記録としては1994年6月1日土山峠でさえずり、1995年7月7日秦野清川線でさえずりなどがある。

ツツドリ *Cuculus saturatus*

夏鳥。山間部を中心に普通に確認される。

ホトギス *Cuculus poliocephalus*

夏鳥。山間部を中心に普通に確認される。

フクロウ科 *Strigidae*

コノハズク *Otus scops*

迷鳥。1993年6月16日に、国際マス釣場において1羽が確認されたが、その後は確認されていない。

オオコノハズク *Otus lempiji*

留鳥。事故死体や補食跡等で稀に確認される。繁殖に関しては、1996年6月4日に巣立ち雛の死体が拾得されたほか(青木,1997)、1997年5月28日には中津溪谷の下山橋付近で人間に対する排他行動が確認された。

アオバズク *Ninox scutulata*

夏鳥。稀に確認される。記録としては1995年9月20日八丁橋(八丁林道入り口)で1羽などがある。

フクロウ *Strix uralensis*

留鳥。少ない。夜行性のため確認例は少ないが、さえずりや事

故死体などで時折確認される。繁殖も確認されている。

ヨタカ科 *Caprimulgidae*

ヨタカ *Caprimulgus indicus*

夏鳥。少ない。主に山間部で確認される。記録としては1993年6月23日金沢林道で鳴きながら飛翔中の個体が1羽、1996年7月12日大棚沢広場で事故死体などがある。

アマツバメ科 *Apodidae*

ハリオアマツバメ *Hirundapus caudacutus*

旅鳥。秋の渡りの時期に稀に確認される。記録としては、1992年10月9日高畑山登山道で10羽などがある。

ヒメアマツバメ *Apus affinis*

留鳥。以前は稀な確認であったが、近年は確認頻度も高く、高取山などの山頂付近では普通に確認される。1996年12月6日には早戸川林道で40羽が確認された。

アマツバメ *Apus pacificus*

夏鳥。以前は不定期な確認であったが、近年は高取山などの山頂付近では普通に確認される。

カワセミ科 *Alcedinidae*

ヤマセミ *Ceryle lugubris*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。湖周辺で5〜6つがいが繁殖していたと思われるが、現在では確認数は減少している。

アカショウビン *Halcyon coromanda*

迷鳥。さえずりが稀に確認される。最近の記録では2004年5月24、25日にさえずりが確認された。

カワセミ *Alcedo atthis*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

キツツキ科 *Picidae*

アリスイ *Jynx torquilla*

迷鳥。1997年10月22日に、早戸川林道においてモズに追いかけられている1羽が確認された(初記録)。その後は確認されていない。

アオゲラ *Picus awokera*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

アカゲラ *Dendrocopos major*

留鳥。山間部を中心に普通に確認され、繁殖も確認されている。

コゲラ *Dendrocopos kizuki*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

ヤイロチョウ科 *Pittadae*

ヤイロチョウ *Pitta brachyura*

迷鳥。2003年7月29日にさえずりが確認された(初記録)。谷の中をさえずりながら移動していたが、姿は確認できなかった。その後は確認されていない。

ヒバリ科 *Alaudidae*

ヒバリ *Alauda arvensis*

夏鳥。以前は確認されていた。工事開始後は1987年に記録がある(中村,1991)。筆者らの観察では、1992年ごろから宮ヶ瀬湖畔園地等で再び確認されるようになった。

ツバメ科 *Hirundinidae*

ツバメ *Hirundo rustica*

夏鳥。宮の平や水の郷で普通に確認され、繁殖も確認されている。

コシアカツバメ *Hirundo daurica*

迷鳥。1990年9月26日に1羽が確認された。その後は確認されていない。

イワツバメ *Delichon urbica*

夏鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。1989年に繁殖が確認されてからは、年々営巢地は増加していった。貯水池内の営巢地は湛水によって水没してしまったが、湛水後も繁殖地を広げ、1998年にはダム本体でも繁殖を行った。

セキレイ科 *Motacillidae*

キセキレイ *Motacilla cinerea*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

ハクセキレイ *Motacilla alba*

留鳥。以前はダムの下流部のみで、湖周辺では冬季を中心に稀に確認されるだけであったが、現在のは水の郷や石小屋ダム周辺で1年を通して確認されている。

セグロセキレイ *Motacilla grandis*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

ビンズイ *Anthus hodgsoni*

冬鳥。少ない。主に道路の法面等に飛来する。丹沢の標高の高いところでは繁殖も確認されている(平田・山口,1997)。記録としては1998年10月19日宮ヶ瀬湖畔園地で2羽などがある。

タヒバリ *Anthus spinoletta*

迷鳥。1991年以前は稀に確認されていた。その後確認されていなかったが、1998年3月18日には宮ヶ瀬湖畔園地において13羽が確認され、同月31日には約20羽が確認された。これらの個体は4月中旬まで確認された。

サンショウクイ科 *Campephagidae*

サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus*

旅鳥。春秋の渡りの時期に、通過していく個体が確認される。

ヒヨドリ科 *Pycnonotidae*

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。春秋の渡りの時期には、集団で移動するのが確認される。

モズ科 *Laniidae*

モズ *Lanius bucephalus*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

カワガラス科 *Cinclidae*

カワガラス *Cinclus pallasi*

留鳥。湛水開始前は中津川や早戸川で普通に確認され、繁殖も確認されていた。湛水後は宮ヶ瀬湖畔園地と貯水域の上下流のみの確認となった。

ミソサザイ科 *Troglodytidae*

ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

イワヒバリ科 *Prunellidae*

イワヒバリ *Prunella collaris*

迷鳥。1996年12月14日に、原石山において2羽が確認された（初記録）。冬季に稀に確認されるが、定着しない。その他の記録としては、1996年12月18日大門沢で3羽、1998年2月10日大門沢で1羽、1999年1月12日早戸川林道で1羽（石田スーザン）などがある。

カヤクグリ *Prunella rubida*

冬鳥。湖周辺の広い範囲で確認されるが、あまり多くはない。

ツグミ科 *Turdidae*

コマドリ *Erithacus akahige*

旅鳥。渡りの時期にさえずりが稀に確認される。丹沢の標高の高いところでは夏鳥として渡来し、繁殖も確認されている（平田ら,1997）。記録としては1997年4月16日ヒル沢でさえずりなどがある。

ノゴマ *Luscinia calliope*

旅鳥。秋の渡りの時期に稀に確認される。1996年10月17日には、宮ヶ瀬ビジターセンターにおいて雄1羽がガラスに衝突して保護された。

コルリ *Luscinia cyane*

夏鳥。主に山間部で確認され、繁殖も確認されていたが、現在ではほとんど確認することはできない。

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*

冬鳥。普通に確認される。丹沢の標高の高いところでは繁殖も確認されている（平田・山口,1997）。

ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus*

冬鳥。普通に確認される。

ノビタキ *Saxicola torquata*

旅鳥。秋の渡りの時期に稀に確認される。記録としては、1992年10月20日落合で2羽、1998年10月7日宮ヶ瀬湖畔園地で8羽などがある。

イソヒヨドリ *Monticola solitarius*

留鳥。1994年3月に、北岸道路において雄1羽が確認された。その後ダム本体の建設に伴って、ダム本体、石小屋ダムを中心に雌雄共に確認されるようになったが、繁殖は確認されていない。

トラツグミ *Zoothera dauma*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

マミジロ *Turdus sibiricus*

旅鳥。1995年9月22日に、高畑山登山道において雄1羽が確認された。その後もさえずりなどで稀に確認される。丹沢の標高の高いところでは夏鳥として渡来し、繁殖も確認されている（平田・山口,1997）。

クロツグミ *Turdus cardis*

夏鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

アカハラ *Turdus chrysolaus*

冬鳥。少ない。丹沢の標高の高いところでは繁殖も確認されている（平田・山口,1997）。

シロハラ *Turdus pallidus* Gmelin

冬鳥。普通に確認される。

ツグミ *Turdus naumanni*

冬鳥。普通に確認される。

ウグイス科 *Sylviidae*

ヤブサメ *Urosphena squameiceps*

夏鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

ウグイス *Cettia diphone*

留鳥。普通に確認される。

オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*

迷鳥。1998年5月27日に、やまびこ大橋においてさえずりが確認された（初記録）。その後は確認されていない。

メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*

旅鳥。亜種メボソムシクイ *P.b.xanthodryas* と亜種コメボソムシクイ *P.b.borealis* 共に春秋の渡りの時期に確認される。亜種メボソムシクイは丹沢の標高の高いところでは夏鳥として渡来し、繁殖も確認されている（平田・山口,1997）。

エゾムシクイ *Phylloscopus tenellipes*

旅鳥。春の渡りの時期に確認される。丹沢の標高の高いところでは夏鳥として渡来し、繁殖も確認されている（平田・山口,1997）。

センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus*

夏鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

キクイタダキ *Regulus regulus*

留鳥。主に山間部で普通に確認され、繁殖も確認されている。

セッカ *Cisticola juncidis*

迷鳥。1999年6月16日に、宮ヶ瀬湖畔園地で1羽が飛びながらさえずっているのが確認された（初記録）。その後は確認されていない。

ヒタキ科 *Muscicapidae*

キビタキ *Ficedula narcissina*

夏鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

夏鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

エゾビタキ *Muscicana griseicticta*

旅鳥。1994年10月18日に、中津川と川弟川の合流部において1羽が採餌しているのが確認された。その後も秋季には時折確認される。その他の記録としては、2003年10月3日仏果山登山道（宮沢）で6羽などがある。

コサメビタキ *Muscicapa dauurica*

旅鳥。秋の渡りの時期に確認される。夏季にも確認されたが、繁殖は確認されていない。夏季の記録としては、1993年6月17日高取山で2羽、2004年5月26日宮ヶ瀬湖畔園地で1羽（坂本堅五）などがある。

カササギヒタキ科 *Monarchidae*

サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

夏鳥。少ない。主に低地のスギ・ヒノキの植林地で確認され、繁殖も確認されている。

エナガ科 *Aegithalidae*

エナガ *Aegithalos caudatus*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

シジュウカラ科 *Paridae*

コガラ *Parus montanus*

留鳥。普通に確認される。夏季には主に山間部で確認される。

ヒガラ *Parus ater*

留鳥。普通に確認される。夏季には主に山間部で確認される。

ヤマガラ *Parus varius*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

シジュウカラ *Parus major*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

ゴジュウカラ科 *Sittidae*

ゴジュウカラ *Sitta europaea*

冬鳥。少ない。主に山間部で確認される。

メジロ科 *Zosteropidae*

メジロ *Zosterops japonica*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

ホオジロ科 *Emberizidae*

ホオジロ *Emberiza cioides*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

カシラダカ *Emberiza rustica*

冬鳥。普通に確認される。

ミヤマホオジロ *Emberiza elegans*

迷鳥。稀に確認される。記録としては、1994年12月14日秦野清川線で雌1羽、2000年12月3日水の郷で雄の事故死体、1997年12月17日高取山で雌1羽、2003年11月2日早戸川林道で雄1羽（牧田友也）などがある。

ノジコ *Emberiza sulphurata*

迷鳥。1995年10月12日に、中津川と川弟川の合流部に広がるススキ原において、標識調査で1羽が捕獲された。これが初記録となったが、その後は確認されていない。

アオジ *Emberiza spodocephala*

冬鳥。普通に確認される。

クロジ *Emberiza variabilis*

冬鳥。年によって飛来数に変動があるが、普通に確認される。丹沢の標高の高いところでは繁殖も確認されている（平田・山口,1997）。

アトリ科 *Fringillidae*

アトリ *Fringilla montifringilla*

冬鳥。年によって飛来数に変動が大きい。1991年12月には、御殿の森への登山道で、400羽以上の群が確認された。

カワラヒワ *Carduelis sinica*

留鳥。普通に確認される。

マヒワ *Carduelis spinus*

冬鳥。年によって飛来数に変動があるが、普通に確認される。

ハギマシコ *Leucosticte arctoa*

冬鳥。伐開地や法面等に稀に渡来する。1996年11月21日にはやまびこ大橋で約110羽の群が確認された。この群れはその後も冬季の間湖周辺で確認された。その他の記録としては、1995年1月18日仏果沢橋で19羽、1995年3月2日北岸道路で8羽などがある。

オオマシコ *Carpodacus roseus*

冬鳥。1996年11月25日に、大瀬沢広場付近において3羽が確認された（佐々木祥仁）（初記録）。その後も各地で確認され、同年には湖周辺でのべ約40羽が確認された。その他の記録としては、1997年11月19日早戸川林道で3羽（雄2雌1）、1998年12月25日高取山で雄1羽などがある。

ベニマシコ *Uragus sibiricus*

冬鳥。局地的であるが、湖周辺で普通に確認される。

ウソ *Pyrrhula pyrrhula*

冬鳥。亜種ウソ *P.p.griseiventris* は普通に確認される。群れの中に、別亜種アカウソ *P.p.rosacea* が混じることもある。

イカル *Eophona personata*

留鳥。普通に確認され、繁殖行動も確認されている。

シメ *Coccothraustes coccothraustes*

冬鳥。普通に確認される。

ハタオリドリ科 *Ploceidae*

スズメ *Passer montanus*

留鳥。人家周辺で普通に確認され、繁殖も確認されている。宮の平や水の郷を中心に、分布が広がっていると思われる。

ムクドリ科 *Sturnidae*

ムクドリ *Sturnus cineraceus*

留鳥。人家周辺で普通に確認され、繁殖も確認されている。1990年から宮の平で確認され始めた。

カラス科 *Corvidae*

カケス *Garrulus glandarius*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

オナガ *Cyanopica cyana*

迷鳥。稀に確認される。本種は人家周辺を生息環境とするため、今後水の郷等に入ってくることも考えられる。湖の北側にある鳥屋地区では留鳥。記録としては1992年4月24日宮の平で20羽、1996年6月25日東沢で声などがある。

ハシボソガラス *Corvus corone*

留鳥。少ない。宮の平や水の郷を中心に確認され、繁殖も確認されている。

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

外来種

カモ科 *Anatidae*

カナダガン *Branta canadensis*

迷鳥。2000年5月14日宮ヶ瀬湖畔園地で1羽が撮影された（宮ヶ瀬ビジターセンター,2001）。本種は丹沢湖周辺では普通に確認されるが、宮ヶ瀬湖では初めての記録となった（初記録）。しかし、その後は確認されていない。

キジ科 *Phasianidae*

コジュケイ *Bambusicola thoracica*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

ハト科 *Columbidae*

カワラバト（ドバト） *Columba livia*

留鳥。普通に確認され、繁殖も確認されている。

チメドリ科 *Timaliidae*

ガビチョウ *Garrulax canorus*

留鳥。1995年9月6日に、八丁林道において巣立ち雛1羽が保護された。記録としてはこれが初めてとなったが、筆者は1994年にも本種と思われる親鳥と巣立ち雛2羽を水沢付近で確認している。その後分布域は広がり、湖周辺で普通に確認されるようになった。現在では、仏果山方面の稜線沿いにも分布する。2004年5月19日には川弟川沿いにおいて営巣も確認された（四角目勝二）。

ソウシチョウ *Leiothrix lutea*

冬鳥。1998年11月5日に、高畑山登山道において4羽が確認された（初記録）。その後、同場所と荒井林道において、冬季の間生息が確認された。現在では秋季を中心に普通に確認される。丹沢の標高の高いところでは繁殖を行っていると思われる。

謝 辞

石田スーザン氏、川手隆生氏、神戸宇孝氏、坂本堅五氏、佐々木祥仁氏、四角目勝二氏、牧田友也氏、吉田文雄氏には目撃情報をいただいた。また、国土交通省相模川水系広域ダム管理事務所には調査への便宜を図っていただいた。この場を借りて御礼申しあげる。

引用文献

青木雄司, 1997. 丹沢山中で拾得したオオコノハズク幼鳥の死体について. BINOS, 4:91-92. 日本野鳥の会神奈川支部.
平田寛重・山口喜盛, 1997. 丹沢山地の鳥類. 丹沢大山自然環境総合調査報告書丹沢山地動植物目録, pp.6-13. 神奈川県.
宮ヶ瀬ビジターセンター, 2001. 宮ヶ瀬ビジターセンター発 2000 年丹沢周辺自然情報. 36pp.
宮ヶ瀬ビジターセンター, 2002. 宮ヶ瀬ビジターセンター発 2001 年丹沢周辺自然情報. 30pp.
宮脇 昭・鈴木邦雄, 1982. 宮ヶ瀬地区の植生－流域環境管理の基礎として－. 43pp. 横浜植生学会.
中村一恵, 1991. 中津渓谷とその周辺域の鳥類相. 自然教育活動のための宮ヶ瀬自然環境基礎調査報告書, pp.73-85. 日本自然保護協会.
日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録. 345pp. 日本鳥学会, 帯広.
山口喜盛, 1991. 丹沢山地鳥類目録. 自然と文化, (14):83-110. 平塚市博物館.

（青木、藤井：宮ヶ瀬鳥類調査グループ）